

地（知）の拠点整備事業に係る取り組み
～小樽商科大学の事例～

後藤英之（小樽商科大学ビジネス創造センター）

1. はじめに

小樽商科大学は、平成25年度より文部科学省における「地（知）の拠点整備事業（以下、COC 事業）」の採択大学に選定され、「地域と共創する北海道経済活性化モデルと人材育成」と題した、地域志向型の研究・教育プロジェクトに取り組んでいる。本稿は、産学官連携による新たな取り組みである、同プロジェクトの経過を報告するものである。

2. プロジェクトの概要

小樽商科大学が位置する「後志地域」は、国内でも有数の観光地（小樽市、倶知安町、ニセコ町）を抱え、また農林水産物や歴史的建造物などの地域資源が豊富な地域である。これらの地域資源を掘り起し、コーディネートすることで、後志地域の地域間連携を促進し、観光を軸とした地域活性化を図るとともに、地域視点と国際視点を兼ね備えた人材を育成し、地域経済活性化の拠点構築を目指すことを目的としている。

3. プロジェクトの推進体制

(1) 大学内における推進体制

大学内においては、COC 事業の情報共有と意思決定を図る目的で「COC 推進本部会議」を設置、産学連携担当の副学長が座長を務め、関係部署が出席、開催は不定期である。実際の事業推進においては、ビジネス創造センター（以下、CBC）内に設置された「地域連携部（地域連携コーディネーター）」「地域経済研究部（学術研究員及びスタッフ教員）」が主たる業務を担っている。また、COC 事業推進を円滑に行うため「地域連携戦略係」「研究支援係」がサポートを行う体制にある。

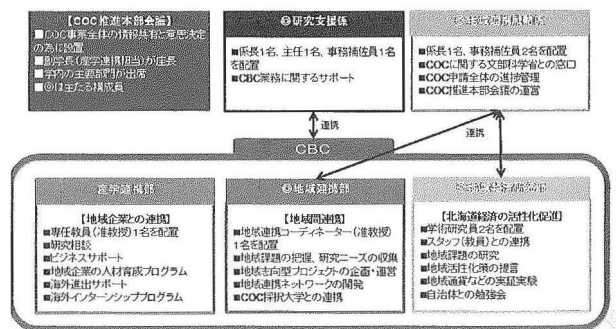


図2. 小樽商科大学 COC 事業推進体制

小樽商科大学 地（知）の拠点整備事業
地域と共創する北海道地域活性化モデルと人材育成
「地域研究」「地域貢献」「教育」の3つのキーワードで事業を推進、「地域経済の活性化」「地域人材(インターンジャー)の育成」を実現する

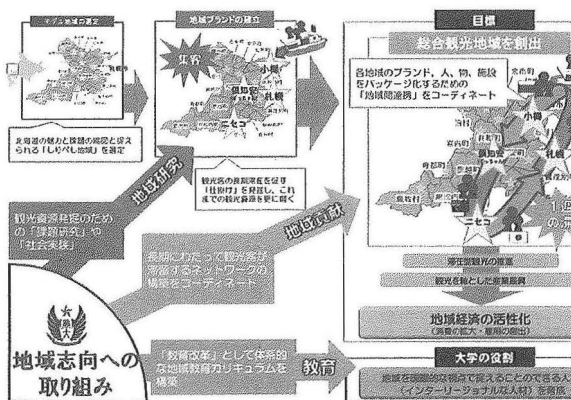


図1. 小樽商科大学 COC 事業概要（出所：小樽商科大学）

(2) 地域との連携体制

小樽市は本学に研究員が在籍していた経緯もあり連携体制が整っていることから、未整備であった後志管内他町村との連携推進に注力することとしている。地域連携については、各町村との個別連携の他、大きく以下の3つのスキームを活用している。

①しりべし塾（後志全域の連携推進）

後志観光連盟（北海道後志総合振興局が事務局）が主催する、地域間観光を考える会議体。

後志管内の全ての、市町村観光担当職員、観光協会職員が一同に開始、年2～3回の会議のほか、地域資源発掘フィールドワーク（平成26年度は4回開催）を行っている。本学は、地域連携コーディネーターと学術研究員が同塾に参画し、市町村と共同で地域資源の発掘や地域ニーズの収集を行なっている。

②マッサン推進協議会（余市町、小樽市との連携推進）

NHK朝の連続テレビ小説を支援するために、余市町が設置した会議体。余市町内の主要団体のほか、小樽市や小樽市観光協会なども参画している。本学は、CBCが構成員となり、地域ニーズの収集、連携の推進を図り、COCプロジェクトの推進を行っている。

③北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部（後志全域の連携推進）

会員数100名を超える異業種交流団体で、月1回の例会の他、各研究グループによる活動を行っている。農業経営部会を有し、農業者の参加が多いのが特徴となっている。本学は、CBCが構成員となり、地域ニーズの収集や地域企業との連携推進を図っている。昨年実施した「しりべし未来創造大学」は、本活動の成果である。

4. プロジェクトの申請状況

観光資源発掘のための「課題研究」や「社会実験」「教育システム」等、地域志向型プロジェクトへの助成。プロジェクトの規模に応じ、助成金額上限を、S:300万円、A:100万円、B:30万円に設定、また、公募時期を2回（7月と9月）に分割した。これは、遅れて発生した地域ニーズに対応する為の措置である。H26年度は、第1次公募23件、第2次公募7件、合計30件のプロジェクトを採択した。

5. プロジェクトの状況と今後の課題

今年度、実施した地域志向型プロジェクトの

中で、代表的なものを事例として示す。

(1) ニセコ地域における観光客の動態調査

ニセコ観光圏認定を踏まえ、ニセコ地域における滞在観光の実態を調査する。学生を導入して、夏期と冬期にアンケート調査、冬期にスキー場でのフィールドワークを実施した。

(2) ヒューマンストーリーの調査・研究

NHK朝の連続テレビ小説のモデルである竹鶴政孝氏とリタ夫人に係る、ヒューマンストーリーの調査を行い、観光資源化を図る。学術研究員が100を超える人々に聞き取り調査を行った他、リタ夫人の料理レシピと手紙の翻訳を行った。また、小樽市と余市町の周遊観光を促すため、余市及び小樽の所縁の地とストーリーを紹介するパネル（移動式）を作成、小樽市内や余市町内でのイベントに貸出を行った。

(3) 地域人材育成講座の開催

①ニセコ創業塾

ニセコ地域における新規事業創出を目的とした、創業塾を開催。経営全般に関する全5講座を開講した。

②しりべし未来創造大学

中小企業家同友会との連携。後継者育成をテーマに後志各地を巡り、全11講座を開講した。

(4) 地域連携キャリア開発のプロジェクト

「コンテンツツーリズム」の推進をテーマに学生が授業の一環として余市町に協力。マッサン推進協議会と連携し、Facebookでの情報発信を開始（H26/9/29～）。6名が交代で、毎日、番組の感想や余市町の観光情報を発信した。

6. おわりに

本学における、「地（知）の拠点整備事業」は今年度で3年目となる。初年度は学内体制の構築に、2年度は地域との連携体制の構築に費やし、今年度より、連携体制の本格稼働、教育面への成果還元が開始される。今後の成果等についても、当学会について報告、他地域への普及を図って行く所存である。